

京阪間くらしと道の今むかし
道をたんねて二千年

■発行 国土交通省近畿地方整備局
浪速国道事務所
〒573-0094
大阪府枚方市南中振3丁目2番3号
TEL (072) 833-0261(代表)
ホームページアドレス
<http://www.kkr.mlit.go.jp/naniwa/>

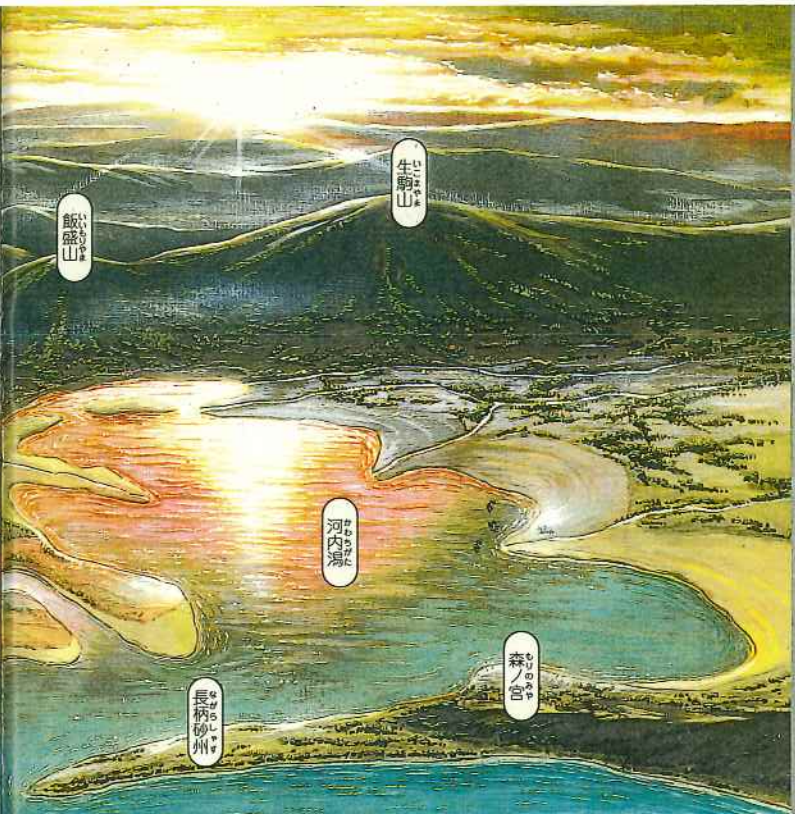
●この本は再生紙を使用しています



もくじ

<p>古代・平安</p> <p>縄文・弥生・古墳時代の道 一番さいしよは、人が通った跡が道になった。……2</p> <p>飛鳥・奈良時代の道 日本中を治めるため、七つの道を朝廷がつくった。…4</p> <p>飛鳥・奈良時代の道 僧の行基が、しよ民のための道をつくった。……6</p> <p>平安時代の道 東高野街道は、仏教で栄えた。……8</p> <p>おもしろズームイン 「平安貴族のリッチな遊び」……10</p> <p>鎌倉・安土・桃山</p> <p>鎌倉～安土・桃山時代の道 道に駅がたくさんできて、市もたった。……12</p> <p>安土・桃山時代の道 京都と大坂を結ぶ、最短の道ができた。……14</p> <p>江戸</p> <p>江戸時代の道 文禄堤が京街道になって、宿場町もできた。……16</p> <p>江戸時代の道 枚方宿は、京街道一の宿場町だった。……18</p> <p>おもしろズームイン 「東海道をひた走る、飛脚の源さん」……20</p> <p>おもしろズームイン 「お休ちゃんの旅日記」……22</p> <p>おもしろズームイン 「幕末かわら版」……24</p>	<p>明治時代 新しい乗り物が登場し、道がにぎやかになった。……26</p> <p>明治～昭和の道 京街道は、車の走る道になった。……28</p> <p>昭和20年以降の道 国が豊かになって、新しい道も必要になった。…30</p> <p>昭和20年以降の道 生活が現代的になって、マイカー時代がやってきた。…32</p> <p>昭和20年以降の道 貨物輸送の主役は鉄道からトラックへ！……34</p> <p>現代の道 道に車があふれ、困ったことも起きました。…36</p> <p>おもしろズームイン 「光善寺博士の 緑と道の研究ファイル」……38</p> <p>未来の道 未来の道はどんな道？……40</p> <p>歴史の名所いちらん……42</p> <p>見どころアルバム……46</p> <p>街道いちらん……47</p> <p>さくいん……48</p>
---	---

*写真説明文についている数字①は、42ページの名所の番号です。



2000～3000年前の大坂平野と淀川流域

「道」の歴史は、私たちの歴史でもあります。

私たちの地域のあちこちには昔栄えた道が人知れずねむっています。今でも使われている道もあります。新しくつくられた現代の道もあります。道は、人びとの暮らしと深くかかわりながら生まれ変わっていきます。私たちの地域の道の歴史を調べていくと私たちの地域がたどった歴史もわかってきます。古くからの道のなりたちを通して、さまざまな時代の地域のようすや暮らしをみていきましょう。



一番さいしょは、 人が通った跡が道になった。



村と村をつなぐため、のびていった道

大昔、人びとは狩りをするために「けもの道」をたどりました。山林の中の道はしだいにふみ固まって、人の道へと変わっていったのでしょう。縄文時代には今の大阪平野に「河内湖」という大きな湖がありました。弥生時代になると、その河内湖の周辺の湿地でイネ(お米)のさいばいが行われるようになり、人びとはきまった土地に住むようになりました。



たくさんの村ができ、村と村の間では物をこうかんするために、人が行き来するようになりました。人が通ったり物が運ばれて、だんだん道ができていったんですね。



旧田中家館物民族資料館の敷地内に復元された「穴式住居」(枚方市藤阪天神町)



地図：河内湖の時代(約1800~1600年前) 『機大阪平野発祥史』 梶山彦太郎・市原美香 古文化学研究会(平成63年)より加筆・作成

古墳時代にできた、 日本初のていぼう

やがて、力のある村はほかの村をしたがえるようになりました。小さな国がたくさんでき、ついに日本を統一したのが大和朝廷です。このころを古墳時代といい、強い豪族や天皇の墓である古墳がたくさんつくられました。また今の大阪府で、もっとも栄えていた難波津(難波の港)には、中国や朝鮮半島からたくさんの

渡来人がやってきて、土木やはた織りの技術を伝えました。仁徳天皇の時代には、日本で最初のていぼうである「茨田堤」がつくられました。その工事を行ったのも渡来人の秦氏であるといわれています。人びとはこのつつみの上を歩いて、道として利用したのでしょう。



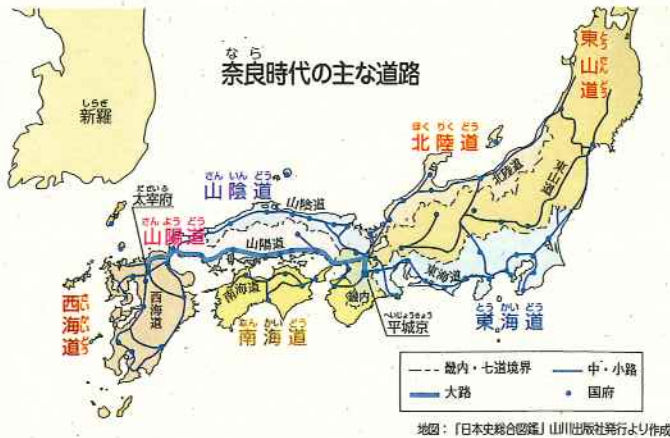
北河内地域でただひとつ、横口式石室をもつ「石の宝殿古墳」(国指定史跡(豊川市打上))



神宮寺遺跡から出土した「ナイフ型石器」(交野市神宮寺)



古代の人びとを淀川の洪水から守った「茨田堤」の跡(門真市宮野町)



地図：「日本史総合図録」山川出版社発行より作成

日本中を治めるため、 七つの道を朝廷がつくった。

今の道のきそになった、七道

「大化改新」のあと、政治のしくみや法律が新しく整えられました。大和朝廷は地方を支配するために、日本を都に近い畿内と七つの地域に分け、それぞれの地域をめぐる七つの道を定めました。「七道」の名前は、地域を表す名前でもあるのです。私たちの地域（枚方市や京田辺市）を通る「山陽道」は、大陸との窓口である太宰府と平城京を結ぶ、最も重要な道として、まっ先に整えられました。

ずっと後の時代になって、主な鉄道の線路や高速道路が、

ほぼこの七道に沿ってつくられています。こんな昔に日本の交通路のきそができていたんですね。



馬の仕事をやる家を「馬戸」といい、その数は馬に用意された馬の数によって定められ、中でも裕福で優秀な一人が馬長に選ばれました。また、馬には「馬田」という田んぼがあって、収穫した稲をいろいろの費用にあてていました。



朝鮮半島の百濟国からやってきた百濟王氏一族が、8世紀後半に建てた「百濟寺」の跡
国指定特別史跡（枚方市中宮西之町）

道幅が12mもあった「山陽道」の跡。道幅が広いのは、軍隊も通ったからだろう。ここから女王卑弥呼が邪馬台国を支配していた3世紀ごろの土器も出土（八幡市内里八丁）
（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター提供



地図：「古代日本の交通路1」藤岡健二郎編 大明堂出版発行より作成

道にはじめて駅ができた！

政府からの命令を馬伝のように各地に伝えるために、道の約16kmごとに駅がつくれ、馬や寝る場所、食べ物を用意されました。これを「駅制」といい、鉄道の駅もここからきてい

今の「道の駅」マーク

ます。今日では、国道などに「道の駅」がつくれ、地域の情報（名所など）を発信したり休けいする空間として利用されています。

僧の行基が、しょ民のための道をつくった。

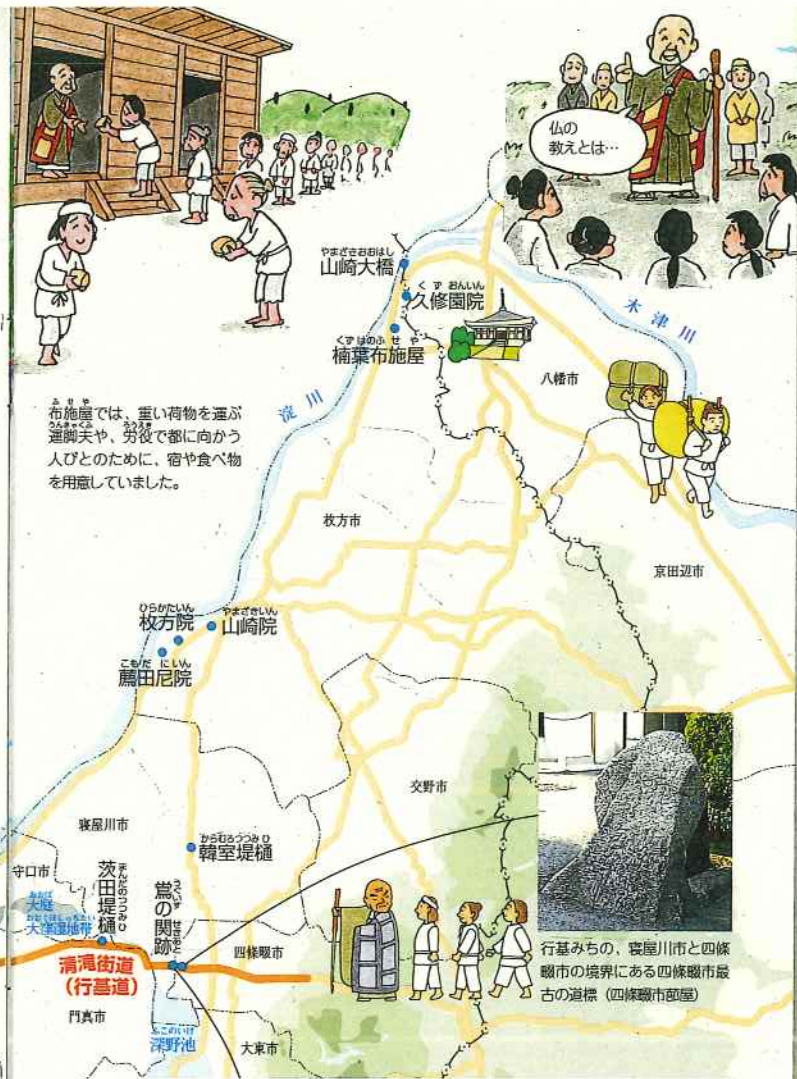
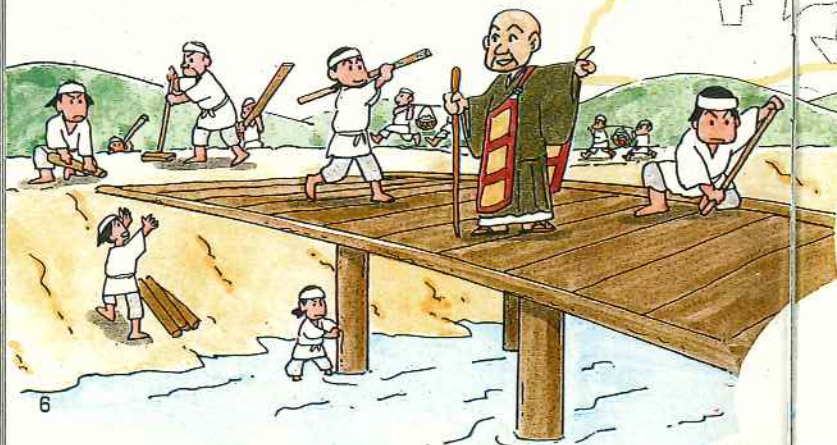
しょ民に仏教を広めた行基

奈良時代、都の平城京では貴族の間で仏教が大変盛んになりました。しかしその華やかさとは反対に、しょ民は重い税に苦しんでいたのです。この時代に活やくした僧の行基は、しょ民に仏教を広めるために、日本中を歩いてまわりました。そしてそのかわらで、人びとのために橋や道、さらに「布施屋」という救済施設などをつくっています。

行基が、道すじの広場に人びとを集めて仏教を説いた「辻説法」は、鎌倉・室町時代には説教節と言われるものになり、やがて三味線などの楽器も入った大道芸（道はたで行われる芸）になっていきました。

私たちが歩いている、行基みち

行基がつくった道は「行基みち」と呼ばれ、今でもそれがもとになってきた道が残っています。今の門真市あたりは、かつて広い低湿地帯で、洪水のひがいがたえない場所でした。そのため行基は古墳時代につくられた茨田堤を整備し、そこから湿地帯に土を盛って、奈良へ続く道をつくったようです。この道は、平城京への重要な交通路として大変にぎわいました。「清滝街道」はこの道がもとになった行基みちだと考えられています。



布施屋では、重い荷物を運ぶ運脚夫や、労役で都に向かう人びとのために、宿や食べ物を用意していました。

仏の教えとは...

行基みちの、寝屋川市と四條畷市の境界にある四條畷市最古の遺標（四條畷市邸屋）



平安時代、行基みち（今の清滝街道）に設けて通行料を取った「鶯の関跡」（関所）。それだけぎわっていたのだろう（寝屋川市堀浦）

東高野街道は、 仏教で栄えた。

総本山の名前が、
道の名前になった

平安時代、弘法大師(空海)は真言宗を開いて高野山に金剛峯寺を建て、また朝廷からは京都の東寺をもらいうけました。京都や私たちの地域のお坊さんも、高野山に修行に出かけたそうです。

また、京都の貴族の間でも高野山へのお参りが流行していました。やがてそれは武士や商人、しよ民にも広がり、多くの人びとが京都方面から高野山をめざして歩いた道は「東高野街道」と呼ばれるようになりました。この街道沿いには「弘法の井戸」といわれる水の飲める休けい所がいくつもつくられました。弘法大師の法力で井戸水がわいた、という伝説にもなっているそうです。

東高野街道は、古くから あった山根街道の近道？

東高野街道よりも古くからあって、同じような道すじをたどる街道が、山根街道です。この道は東高野街道とどちゅうで分かれて、うねうねと村などをめぐる地元の人びとの生活の道です。しかし、どちゅうに用事のない旅人たちは近道になる東高野街道を選んで歩いたので、こちらの道が栄えたのでしょう。

東高野街道にある道標。南は高野、北は八幡、西は奈良方面を示している(枚方市出屋敷)



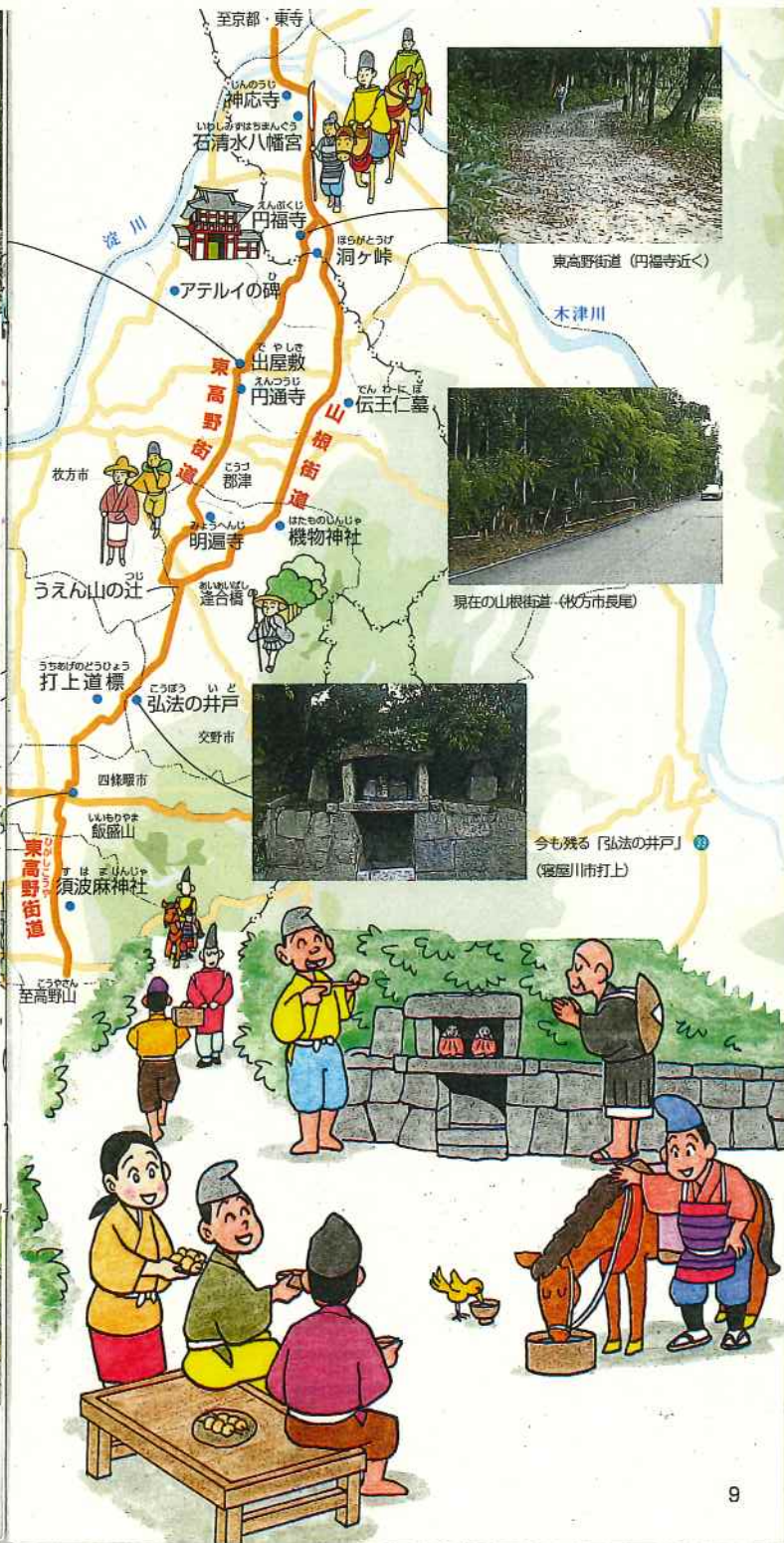
東高野街道のおもかげが残る道(交野市郡津菜園)



東高野街道と清瀬街道の交差点にある道標(四條畷市中野町)



空海は、唐に渡って仏教を学び、帰国して新しい宗派を開きました。



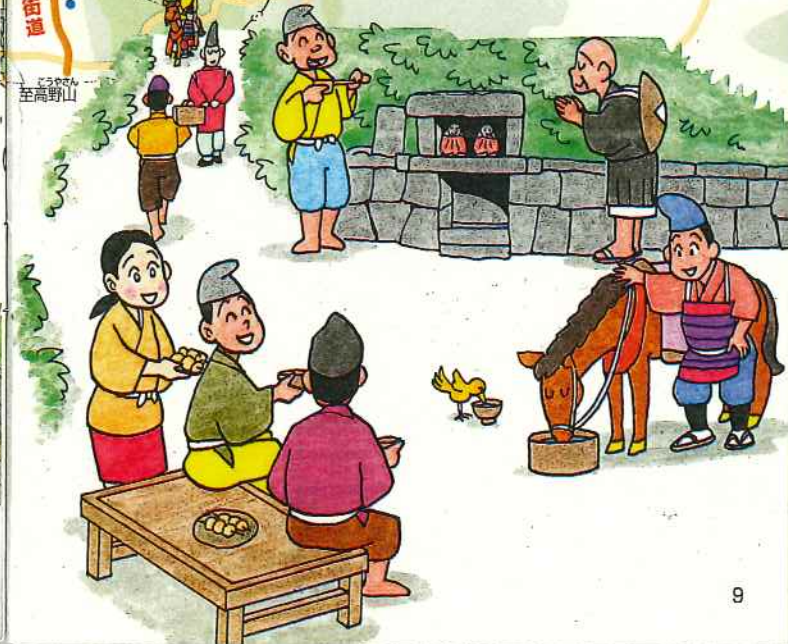
東高野街道(円福寺近く)



現在の山根街道(枚方市長尾)



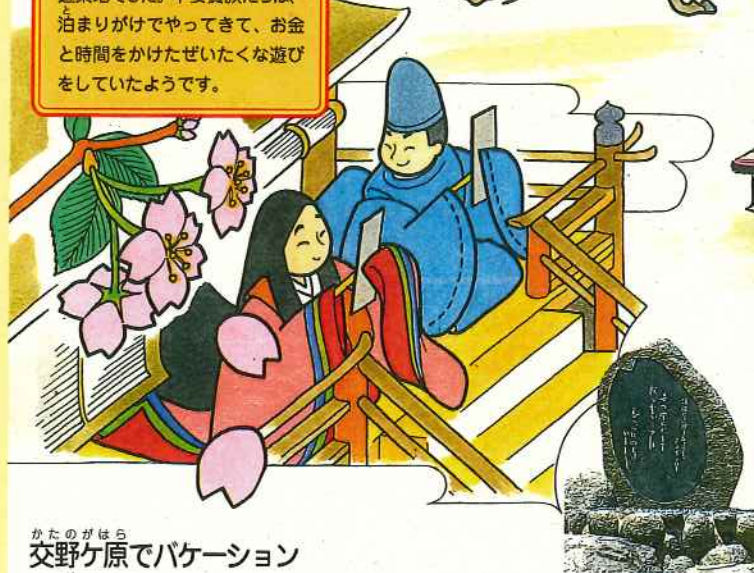
今も残る「弘法の井戸」(寝屋川市打上)



おもしろズームイン
へい あん き ぞく
**平安貴族の
リッチな遊び**



かたのし りがたし とつば
今の交野市と枚方市の東部あた
りは、その昔「交野ヶ原」とよば
れ平安時代の天皇や貴族専用の
遊樂地でした。平安貴族たちは、
泊まりがけでやってきて、お金
と時間をかけたぜいたくな遊び
をしていたようです。



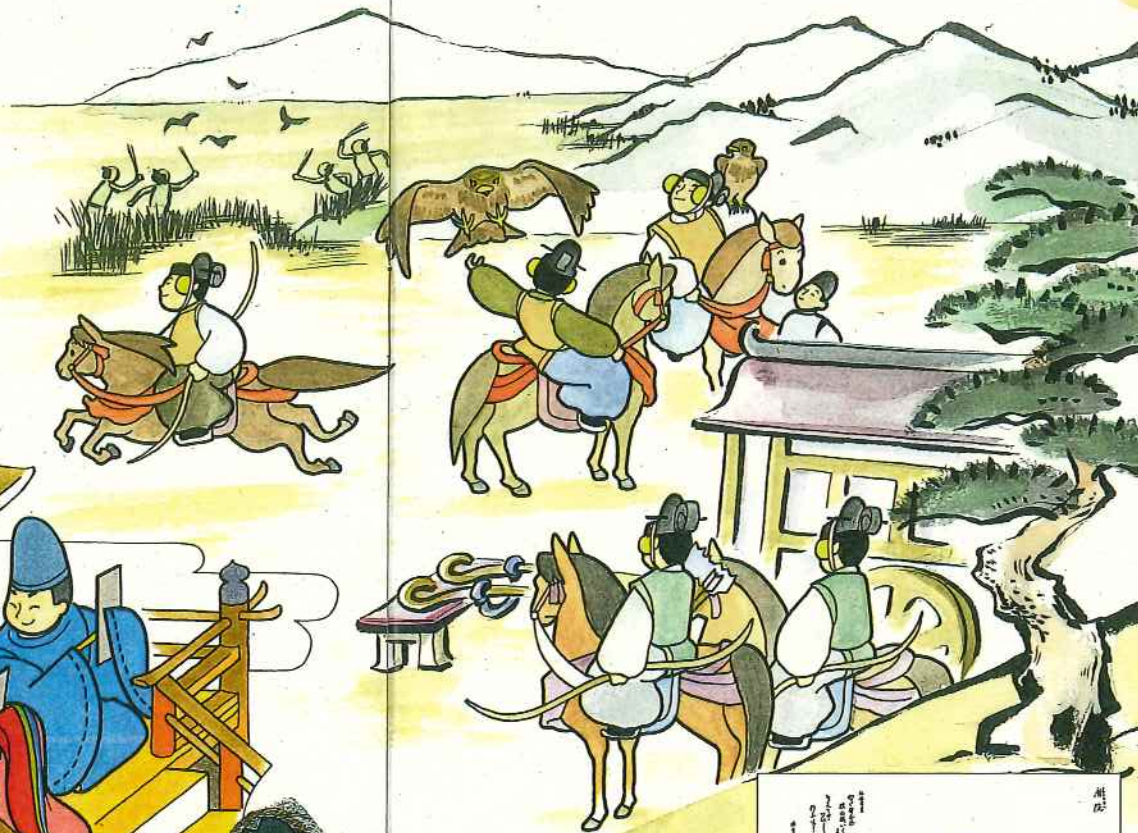
かたのがはら
交野ヶ原でバケーション



ここは都から近くていい場
所なので、私たちはよくタ
カ狩りにやってきます。
あっ、「タカ狩り」は、タカを狩るの
ではなくて、飼いならしたタカを放っ
て野鳥をとる、という遊びですよ。

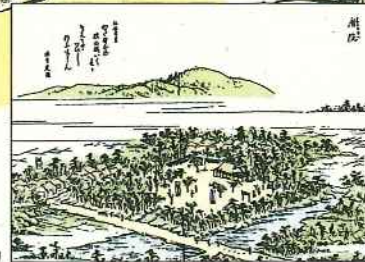


桜をながめると心がなごみ
ます。ここは桜の名所です
から。あら、あちらでは
在原業平さまが和歌をつくってらっ



「世の中に たえて桜のなかり
せば 春の心はのどけからま
し」と在原業平が詠んだ歌碑
が建てられている。惟喬親王
の別荘「渚の院」の跡
(枚方市渚元町)

「渚の院」
河内名所図会
柳原書店刊行より



男なのにいろいろな事情で天皇には
なれず、都では肩身がせまくて…。



美しい交野ヶ原で、
タカ狩りをしたり和歌
をつくったり、それか
ら恋をしたりして、な
んとか元気に暮らし
ています。この御殿
があったあたりは「御
殿山」という地名が
残っていますよ。





道に駅がたくさんできて、 いち市もたつた。

人びとでにぎわった「市」

鎌倉時代には、京都と鎌倉を結ぶ「東海道」が最も重要な道となりました。駅は「宿」とも呼ばれ、幕府の仕事をする人だけでなく、商人などの旅でも利用するようになりました。やがて駅には「市」がたち、その地域の産物や行商人による品物が売り買いされました。市は寺社の門前や港にもたち、石清水八幡宮の東山麓での午市・子市*や、淀津（淀の港）の魚市などは、たいへんにぎわったようです。

後の、室町から戦国時代には、それぞれの大名たちが、自分の城を中心とした道づくりを行いました。戦乱の世をむかえ、私たちの地域では、特に東高野街道に沿った八幡市の洞ヶ峠や宇治街道に沿った枚方市の長尾、交野市や四條驛市などが戦の場となりました。



交野から届いた
えいお酒
どないでっか

宇治茶で栄えたふたつの街道

鎌倉時代の初め、明恵上人というお坊さんが宇治にお茶のさいばいを伝えたといわれています。これが「宇治茶」の始まりでした。この宇治茶によって栄えた街道が「田辺街道」と「宇治街道」です。私たちの地域から人びとは、これらの街道を通して宇治へお茶づくりの出かぜぎに行ったそうです。

*午市・子市
十二支の決められた日に市が開かれたため、午市・子市と呼ばれていました。午や子は十二支で表した今の曜日のようなものです。



男山の山中から湧き出る清水を神としてまつたのが始まりだと伝えられる「石清水八幡宮」(八幡市八幡高防)



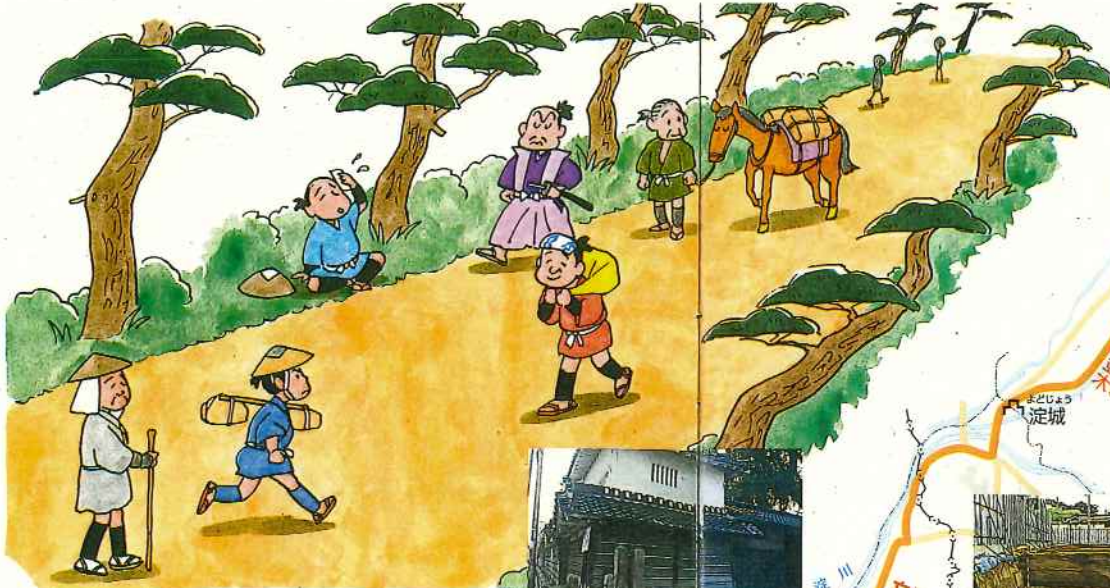
山崎の合戦(1582年)で筒井順慶が、秀吉軍と光秀軍の戦いをここからながめ、有利な秀吉側についたという言い伝えのある「洞ヶ峠」(八幡市南山)



四條驛の合戦(1348年)



飯盛山の合戦(1550~1560年)



きょうと おおさか
**京都と大坂を結ぶ、
最短の道ができた。**



**道づくりの
ルールを
決めた信長**

初めて戦で鉄砲を使った織田信長は、道づくりにも今までにない新しいルールをたくさんつくりました。まず、商業を発展させるため、街道にある関所をなくしました。それまでは大坂(今の大阪)から京都に商品を運ぶには、百数十カ所の関所でお金を取られていたので、関所がなくなり、商人たちは自由に行き来ができるようになりました。また、東海道の道幅は3.5間(約6.4m)とし、曲がりくねった道をまっすぐにして松や柳の並木を植える…などの道づくりのさまざまなルールを定めました。



守口宿近くの文禄堤(橋の上の道)と現在の道路が交差する部分。堤の高さがわかる (守口市本町)



京街道と奈良街道の分かれ目に立つ、守口宿の「難宗寺」 (守口市毛田通り)



ビルを建設するとき、地面の下から出てきた「文禄堤」の跡(牧方市岡本町) (大阪府大市文化財調査委員会提供)



あしひじょう
伏見城

巨大池

まどじょう
淀城

宇治市

京田辺市

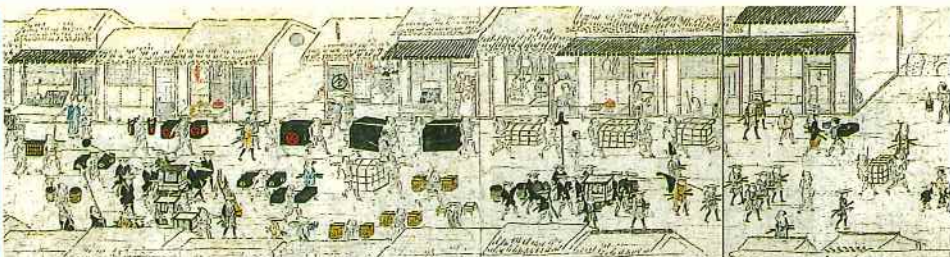


**文禄堤をつくった秀吉は、
道づくりの名人**

おおさかじょう あしひじょう まつ とよとみひでよし
大坂城と伏見城を築いた豊臣秀吉は、この間を結ぶ最短の道が必要でした。そこで力のある戦国大名の毛利一族に命じ、淀川左岸沿いに「文禄堤」(文禄時代につくられた堤)をつくらせ、その上を道として利用しました。実は秀吉は、道づくりの技術が高いから、という理

由で毛利一族を選んだわけではありません。大名が力を持ちすぎると危険だと考え、たくさんのお金を使わせようとしたのです。しかしそれによって、京都と大坂を結ぶ初めての道が誕生し、旅がとても便利になりました。





豪華できらびやかな「紀州徳川家の大名行列」(堺市博物館提供)

文禄堤が京街道になって、 宿場町もできた。

4,000人の大名行列が通った 京街道

天下を統一した徳川家康は、文禄堤を整えて「京街道」をつくりました。京都と大坂を結び、



大きな宿場町もあったため、
中でもひとときわにぎわった街道です。宿場町というのは、宿屋が置かれ、運送の仕組みが整えられた町のことです。京街道には「伏見宿」「淀宿」「枚方宿」「守口宿」がありました。1841年(天保12年)和歌山の紀伊徳川家の参勤交代の大名行列が京街道を通りました。その数なんと約4,000人(武士1,639人、人足*2,337人)！枚方宿にはたくさんの人びとが泊まったそうです。枚方・交野のしよ民は、この大行列の見物を「紀州祭」といって楽しみました。

*人足
荷物を運ぶ人たちのこと



大坂から京都へ向かうときは「京街道」、京都から大坂へ向かうときは「大坂街道」とよんでいました。

淀川の三十石船の船着場である「八軒家船着場」。伏見へ向かう乗船場で、船宿が並びとてにぎわっていました。(大阪市中央区京橋)



いきのええ魚
おまっせえ！

京橋北詰の川魚市



伏見港

伏見宿



「淀宿」と八幡を結ぶ淀大橋
(拾遺郡名所図絵 福川書店刊行より)



重い荷物は淀川の舟で運びましたが、お金などの貴重品は京街道を使って運びました。



江戸時代、紀州侯が通るときだけ天野川にかけられた「駒橋(かささぎばし)」(枚方市新町)



「枚方宿」のおもかげが残る街並み
(枚方市新町)



「守口宿」のおもかげが残る街並み
(守口市本町)



後人だけが持つことのできた証明書。安く宿に泊まることのできた。

淀川は宿場町のライバル？

宿場町には、大名行列の武士たちをはじめ、たくさんの旅人が泊まりました。たいへん栄えたのですが、実は強力なライバルがありました。それは京街道と並行に流れる淀川です。旅人は大坂から京都へは京街道

を歩きますが、京都から大坂へは船で淀川をらくらく下ることができました。多くの人が片道だけ泊まったことから、京街道の宿は「片宿」とよばれました。

枚方宿は、京街道一の 大宿場町だった。

いえやす 家康がつくった特別な宿場町

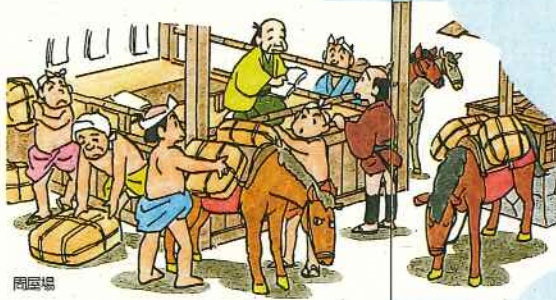
枚方宿は、徳川家康によって特別に定められた、とても大きな宿場町でした。岡新町、岡、三矢、泥町の4つの村からなり、宿場町全体の長さは1,447mで道幅も4.5mとりっぱなもの。道の両側には69軒の「旅籠屋」(宿屋のこと)やいろいろなお店など、全部で378軒の家が並んでいました。

大名行列の準備もばっちり

大名行列に備えて、問屋場(運送の仕事の手続きをする事務所のこと)には、馬100頭、人足100人がいつも用意されていました。大名などの身分の高い人は「本陣」という特別な宿に、他の人たちは旅籠屋やふつうの民家にも泊まったそうです。

シーボルトも休憩した

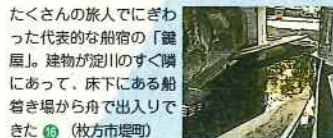
枚方宿には、たくさんの旅人が訪れましたが、京都方面のまちや農村から遊びにくる人も多く、昼も夜も大変なにぎわいだったようです。さらに、西洋医学を日本に伝えたことで有名なシーボルト博士も、伏見への旅のついで、枚方宿でお昼ごはんを食べたそうです。シーボルトは「枚方はとても美しく、淀川の流域は私に祖国のマインの谷を思い出させる」と日記に書いています。



問屋場



舟で淀川を行き来する旅人に「餅食らわんか、酒食らわんか」と声をかけて商売をした、淀川名物の「くらわんか舟」



たくさんの旅人でにぎわった代表的な船宿の「鏡屋」。建物が淀川のすぐ隣にあって、床下にある船着き場から舟で出入りしてきた(枚方市堤町)



船宿



枚方宿の印鑑



岡本町と三矢町の境界に今も残る当時の「常夜灯」(一晩中灯っている明かりのこと)



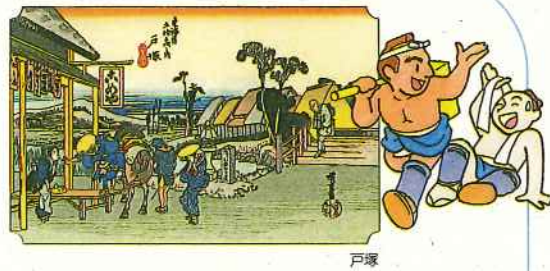
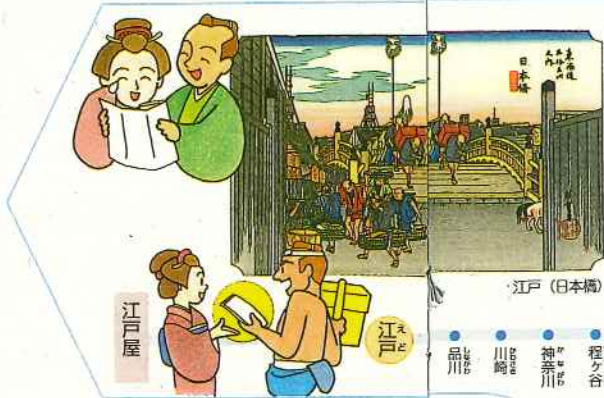
旅籠屋、船宿、宿役人、庄屋の家

ひろく民衆に知らせるために、法令などが書いてある札(高札)を掲げていた「高札場」

おもしろズームイン
とうかいどう
**東海道を
ひた走る
飛脚の
源さん**



飛脚とは書類や手紙、金貨・銀貨などを運ぶ配達人。江戸時代には幕府の荷物を運ぶ「継飛脚」、大名がつくった江戸と領国を往復する「大名飛脚」そして江戸・京都・大坂の商人たちがつくった「町飛脚」が活やくしました。



リレーで配達、サービス満点の町飛脚が大はんじょう!

まいど! 町飛脚の源です。今日も、大坂の船場から走ってきました。「継飛脚」も「大名飛脚」も値が高くて不便でねえ、それで「町飛脚」が始まったんですけど、なんや、えらいはんじょうしまして。東海道を飛脚仲間ですり継いで配達するんですが、大坂を出発して江戸まで6日で行けますなあ。もちろん、玄関先まで荷物を取りに行つて、相手先の家までお届けしてます。それまでは荷物を決まった場所に持って行つたり、取りに行つたりせなあかんかったんで、ずいぶん喜ばれてますわ。

『東海道五十七次一京街道四宿一』中島三桂翁 (昭和61年) より作成
版画: 『東海道五十三次 歌川広重』より



おもしろスームイン

お休ちゃんの旅日記



江戸時代の旅行の名所は神社や寺がほとんどで、お伊勢参りや四国の金比羅参りが大流行したようです。旅行ブームのピークには6人に1人がお伊勢参りに出かけたといふからかなりの人気。枚方の庄屋のおじょうさま、お休ちゃんもお伊勢参りへの旅を楽しんだようです。

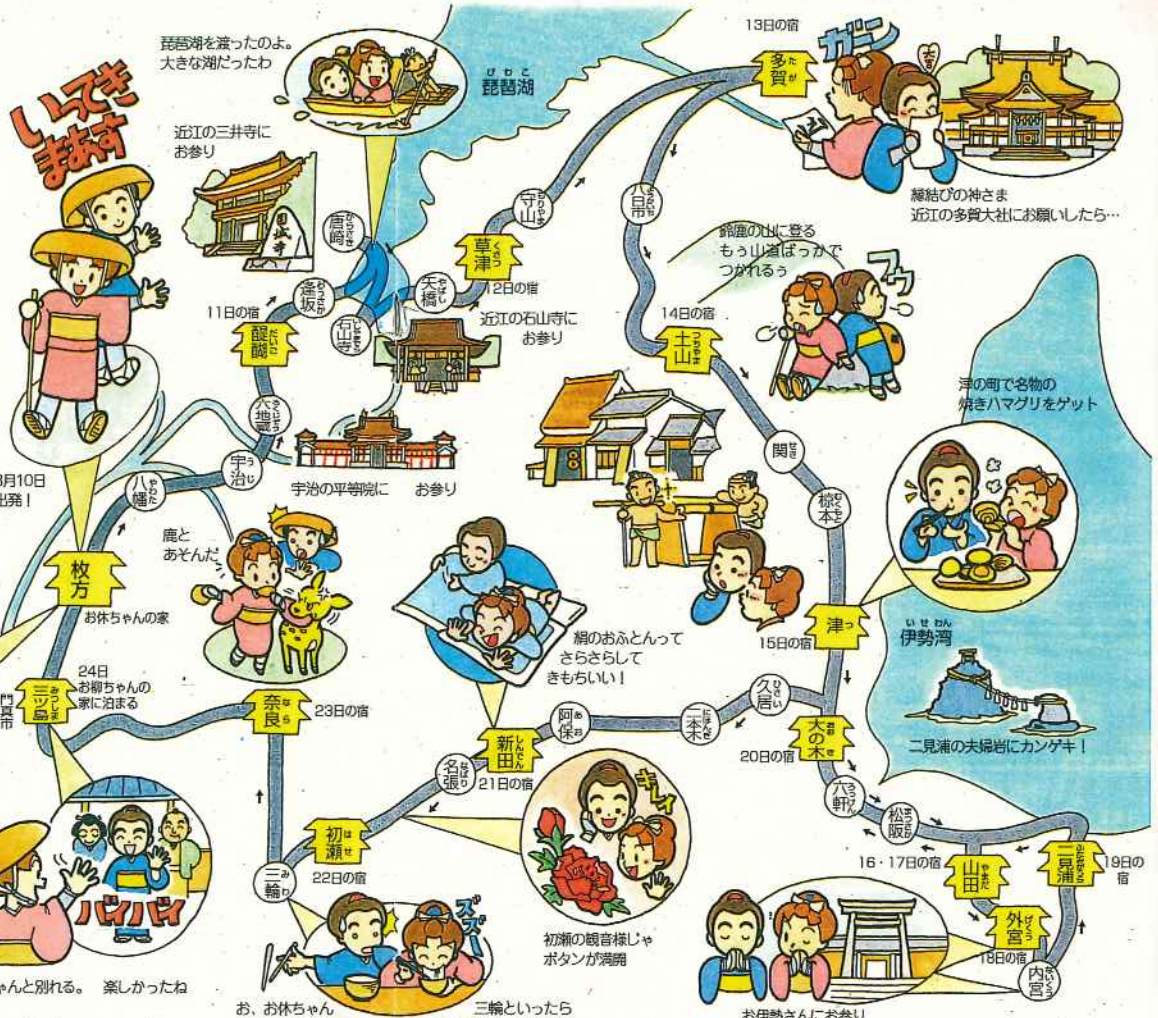
ただいま



3月25日 家へ帰る旅行ってとっても楽しいわ

お休ちゃん、思い出づくりの旅に出かける！

15歳さいになって、そろそろ私もお年頃。お嫁よめにいく前に、お友達のお柳ちゃんやなぎちゃんと思いつくりの旅に出かけたの。お父さんも「結婚したら一生旅行なんてできないから」って。嘉永5年(1852年)、えん結びの神様である近江(滋賀県)の多賀大社と伊勢国(三重県)の伊勢皇大神宮へのお参りに、ぐるりとめぐった2週間の旅でした。



お休ちゃんおすすめの、旅行ガイドブック

江戸時代には、十返舎一九の「東海道中膝栗毛」のような旅をテーマにした読み物や、旅のガイドブックがたくさん出版されたの。わたしのお

「東海道五十七次一京街道四宿一」
中島三佳著 (昭和61年)
お休の伊勢参道中順路図より作成

おすすめのガイドブックは、大坂・たまつり まつやじんの玉造の松屋甚四郎という人がつくった「浪花講」。旅人をだますような宿屋も多かったので、甚四郎さんは親切な宿屋ばかりの「講」という集まりをつかって、それに入っている宿屋を浪花講で紹介したの。みんな、これで安心して旅ができたよ。



江戸時代の旅行ガイドブック「浪花講」

幕末 かわら版

約260年続いた江戸時代の終わりににはさまざまな大事件が occurred しました。私たちの地域の道にもいろいろなエピソードが残っています。



深尾才次郎、大負けの大塩の乱でなみだの逃走!

天保8年(1837年)「大塩平八郎の乱」がぼっ発! 尊延寺村(今の枚方市)の深尾才次郎は、大塩を助けるため、仲間の農民をひきつれて京街道を大坂へ向かった! が、守口で聞いた「大塩は負けてにげた」との知らせに、さあ困った。今さら村にも帰れず、奈良方面へ必死の逃亡。しかしついに観念して、能登半島で自害した。戦うこともなく、ああ無念。

才次郎は、大塩が開いた「洗心洞塾」で学問を学び、大塩とあおっていた。

貧民を救うため、武士や農民を率いて豪商を襲った、大塩平八郎



新撰組、京街道で大いばり!

近藤勇を長とする新撰組は、京都の治安維持に勤める、警察のようなもの。ところが最近、あちらこちらでひんしゆくを買っている。京都から大坂へは淀川を下った方がはるかに早いの、わざわざ京街道をいばり散らして歩いている。宿に着くと大名しが泊まれない本陣で、飲んだり食べたりの好き放題。乱暴なふるまいに、みんな怒ってますよ、近藤はん。

和算を学ぶなら、名学問塾「南明堂」へ!



枚方の中宮にある南明堂*は、高度な和算(算数)を教える質の高い学問塾として有名。北河内だけでなく、京都・大坂などからも塾生が集まるほど。利息の計算、土地の測量や年貢の計算などをはじめ、漢学、漢詩、和歌、天文学なども学べる南明堂が、今、農民や商人の間で大人気!



南明堂塾生 中島興之助(10歳)の和算ノート

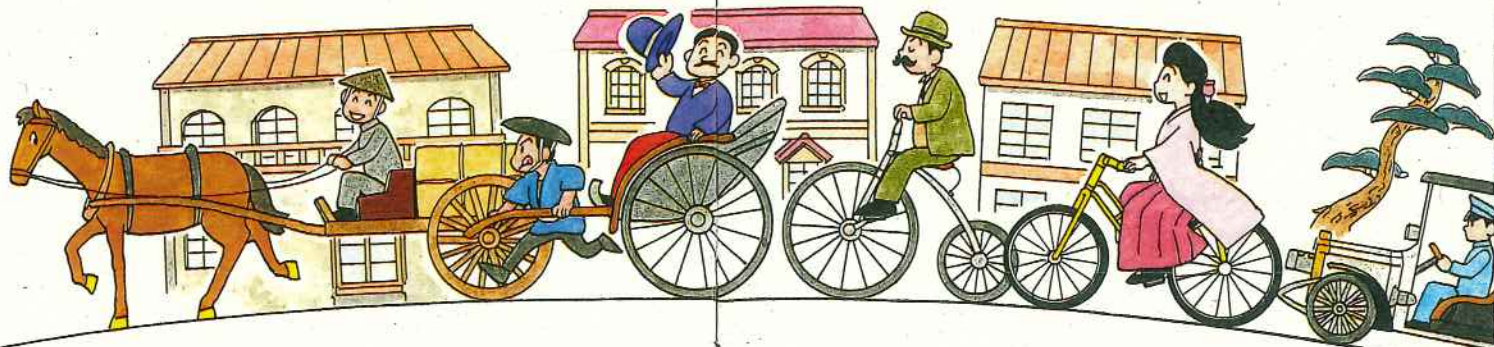
*享保4年(1719年)医者行田鑑斎が開設した南明堂は、塾主4代にわたって明治5年(1872年)まで続き、のべ約3,000人が学んだそうです。

坂本龍馬、スパイをかわし京都から鹿児島へ!

坂本龍馬は幕府にとって要注意人物。寺田屋事件*以降身をかくしていたが、仲間にも実はスパイがいた。その目をぬすむように、夜、伏見港から舟で淀川を大坂へと下った龍馬。さらに大坂から薩摩藩の軍かんで鹿児島へ。幕府をたおす準備のために向かった...とのことだが、愛妻おりょうもいっしょとのこと。これって日本で最初の新婚旅行だとか。

*寺田屋事件: 慶応2年(1866年)1月23日、龍馬が京都の船宿「寺田屋」で、幕府の役人に襲撃された事件。その時、龍馬の命を救ったのがおりょうさんでした。





新しい乗り物が登場し、道がにぎやかになった。

人力車や自転車が大人気！

明治維新は道や乗り物にも、新しい変化をもたらしました。馬車や人力車が走り、明治の終わりには自転車が大流行。ついには自動車も登場しました。交野市で最初に自転車に乗った原田さんという人は、お父さんにならないうで枚方で買って、物置にかくしていたそうです。毎日仕事に行く時にこっそり使っていたのだとか。これまで人や馬が通っていた道に、いろいろな速度の乗り物が走るようになりました。道はたいへんにぎわいましたが、交通事故もおきるようになりました。



鉄道が走って、電気もついた！

1895年(明治28年)、片町駅と四条駅間に、私たちの地域で初めての鉄道「浪速鉄道」が開通し、続いて1910年(明治43年)には、天満橋駅と京都五条駅間に「京阪電気鉄道」が開通しました。京街道に沿って京都と大阪を結ぶ電車の開通を、人びとは心から喜んだそうです。さらに京阪電気鉄道は、沿線地域の家に明かりをもたらしました。電車で使った電気の残りで、電灯が灯るようになったのです。鉄道の開通により、人びとの暮らしも大きく変わったのですね。

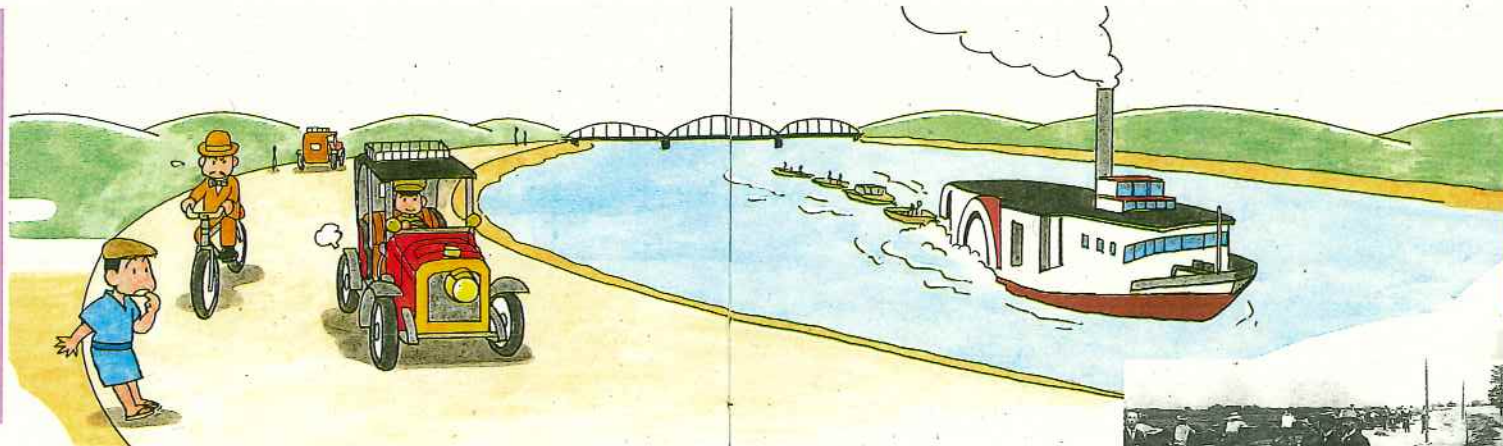
1910年(明治43年)に開始された京阪電気鉄道の電気供給事業でとった電灯



人びとが待ち望んだ京阪電気鉄道が開通(京阪電気鉄道株式会社提供)

京阪電気鉄道
1910年(明治43年)
天満橋から京都五条間開通





京街道は、 車の走る道になった。

国道になった、京街道

明治に入るとさまざまな街道が「国道」や「府道」になり、1885年(明治18年)には京街道も国道2号となりました。1903年(明治36年)初めて自動車が輸入され、ついに日本でも自動車をつくるようになりました。そして国道2号も人の道から車の走る道に変わっていったのです。古くから人びとは、淀川を水の上の道として利用してきましたが、一方で、たびたび洪水に悩まされてきました。そのため、特に明治から昭和にかけて、ていぼうづくりや淀川の川幅を広げたり川をまっすぐにする工事を何度も行いました。それともなあっていぼうの上を走る国道2号もしだいに道幅が広がって、ほそつされた近代的な道路になっていったのです。



待ちに待った、枚方大橋開通

淀川に橋をかけて、向こう岸へ行くことは、人びとの長年の夢でした。それまでは「渡し船」が、ただひとつの方法だったのです。そしてついに1930年(昭和5年)、枚方と向こう岸の高槻を結ぶ「枚方大橋」が完成しました。実は宇治川・本津川にかかっていた古い鉄橋をもらったのだそうです。開通のときには、枚方市の小学生が旗をもって行列し、渡り初めを行いました。今と同じですね。



京街道沿いにある
国道2号の標柱
(枚方市三矢町)



1910年(明治43年)に行われた、淀川上流の橋梁
ていぼう改良工事の様子。ていぼうの上はかつての
京街道(枚方市橋梁)
(郷土出版社刊「枚方・交野の100年」より)



淀川の改修増補工事で、1920年(大正9年)に初め
て導入された20トン機関車と掘削機
(枚方市踏踏地先・1922年(大正11年)
(郷土出版社刊「枚方・交野の100年」より)



1930年(昭和5年)に開通した、淀川の左岸と右岸
を結ぶ枚方大橋(淀川資料館提供)



ほそつされた近代的な道路として、1932年(昭和7年)
に開通した国道2号(枚方市)
(郷土出版社刊「枚方・交野の100年」より)

TOKYO

1964年
東京オリンピック
ピック



1964年(昭和39年)、高速時代の幕開けとなった東海道新幹線(東京-新大阪間)の開通毎日新聞社提供

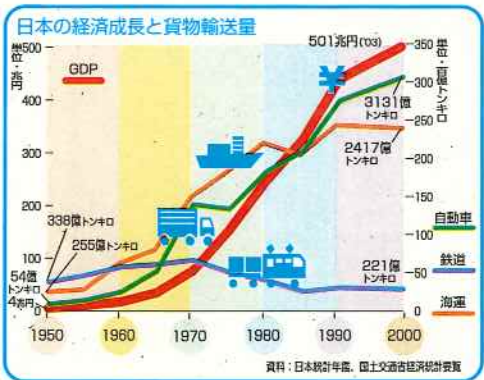
国が豊かになって、 新しい道も必要になった。

戦争が終わって、 急成長した日本の経済

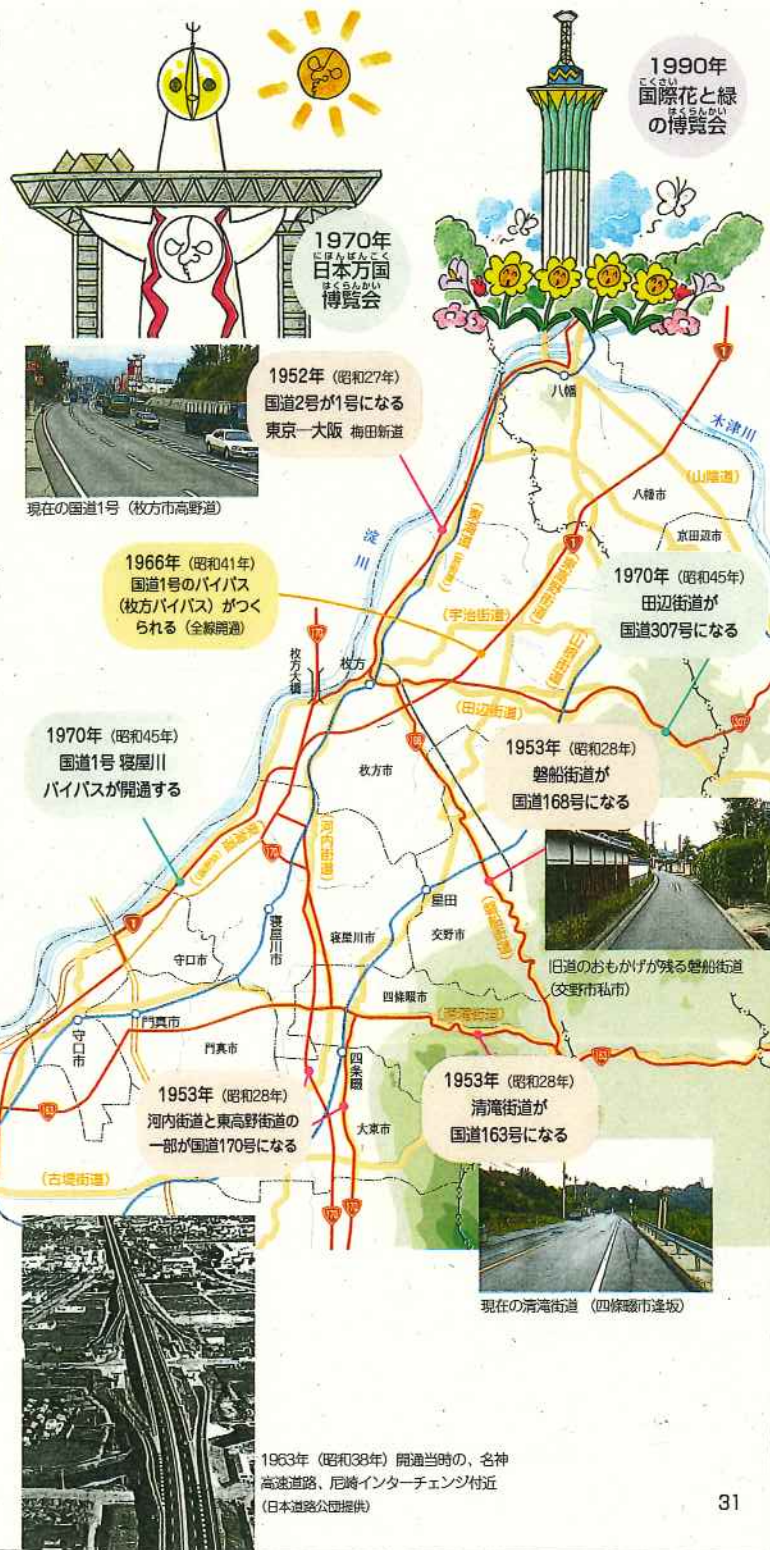
1945年(昭和20年)に第二次世界大戦が終わりました。その後、1955年(昭和30年)ごろから日本の経済は急激に成長し、1964年(昭和39年)の東京オリンピック開催によって、先進国の仲間入りを世界に示します。経済の成長はさらに続き、1970年(昭和45年)には、大阪で日本万国博覧会が開かれ、各国の人びとが日本を訪れました。このころにはGDP*が世界で第2位となり、人口も増え、日本は豊かな国になったのです。

日本初の高速道路が誕生!

経済が成長し、人びとの暮らしが豊かになると、道路は自動車でいっぱいになってきました。今までの道の幅を広げたり、新しい道をつくるなど、自動車のための道づくりが進められました。特に、国をあげた国際的なイベントの開催にあわせて、鉄道や道路が整備されています。東京オリンピックの前年である1963年(昭和38年)には、日本で初めての高速度路・名神高速道路が、そして1964年(昭和39年)には、東京と新大阪の間を走る東海道新幹線が開通しました。



*GDP
経済の活動水準を測る指標。
日本語では「国内総生産」といいます。





生活が現代的になって、マイカー時代がやってきた。

あこがれの香里団地

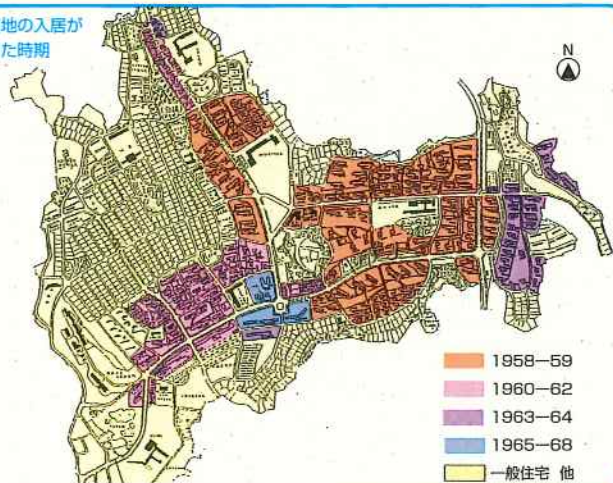
戦後の人口の増加で、特に都市では住宅が不足する問題が occurred。私たちの地域では大阪市の住宅不足を解決するため、1958年(昭和33年)枚方市にあった日本陸軍の爆薬工場の跡地に、香里団地が誕生しました。2万2,000人もが住める、当時では東洋一のマンモス団地だったのです。経済的に恵まれた若いサラリーマン家庭が多く住み「団地族」とよばれました。部屋の間取りのほとんどは6畳と4畳半にダイニングキッチンで、水洗トイレや



軍用地が広大な住宅地に変えた、香里団地(枚方市・1956年(昭和31年))
(国土出版社刊「枚方・交野の100年」より)

ガス風呂、ベランダなどがあり、それまでの住まいとはちがった近代的で便利な暮らしは、人びとのあこがれのまどでした。

香里団地の入居が始まった時期



車に乗る人は20倍に！*

大阪市の周辺には、香里団地をはじめ、大きな団地がたくさんできるなど、住宅地の開発が進みました。そしてこれらのベッドタウン*2から都市への通勤のための鉄道や道路が整備されていきました。また、団地とともに人びとのあこがれだった自動車は、1970年(昭和45年)には4家族に1台のわりあいでもたれるようになりました。町外れにも、大きな駐車場のあるレストランやスーパーがしたいに増え、人びとはマイカーに乗って訪れるようになりました。



1968年(昭和43年)に発売された、トヨタカラー4ドアSL(毎日新聞社提供)

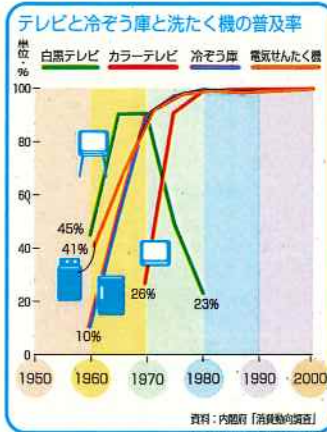
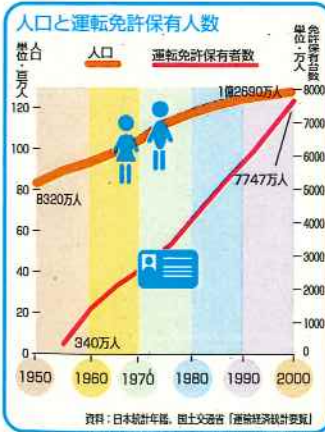


1956年(昭和31年)の電気洗たく機(毎日新聞社提供)

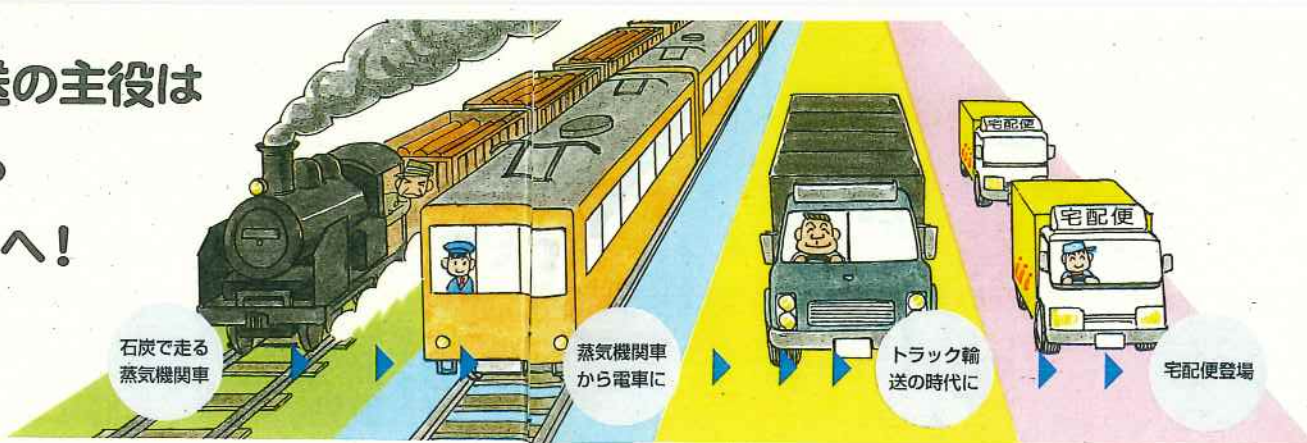
1950年～60年代には「三種の神器」(さんしゅのじんぎ)と言われた、白黒テレビ・電気洗たく機・電気冷ぞう庫が普及

*2 ベッドタウン
大都市周辺の住宅地域や小都市のこと。大都市へ通勤する人が、夜寝るためにだけ帰ってくるころ、という意味です。

*1 1956年と1997年の比較



貨物輸送の主役は 鉄道から トラックへ!



トラック輸送の割合が54%に!

明治になると、江戸時代に活やくした飛脚の制度がなくなり、内国通運会社(今の日本通運)や駅通司(今の日本郵政公社)が貨物の輸送を行いました。1876年(明治9年)には、淀川の対岸に大阪と京都の間を走る鉄道(のちの東海道本線)が開通し、私たちの地域の貨物も鉄道で運ばれるようになりました。

しかし、戦後になって道路が整備されると、これまで中心となっていた鉄道輸送からトラックでの輸送へと変わっていったのです。特に名神高速道路の開通から本格的な「自動車の時代」が訪れ、経済の中心である



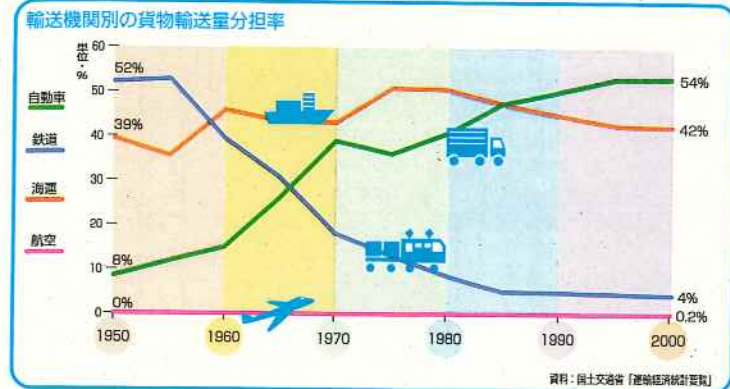
大阪、名古屋、東京が高速道路で結ばれました。急成長する経済とともにトラックが陸上輸送の中心となりました。



内国通運会社(今の日本通運)の看板



C11型のSL(蒸気機関車)に引かれるJR片町線の上の貨車(交野市・1967年(昭和42年)ごろ)(郷土出版社刊「枚方・交野の100年」より)

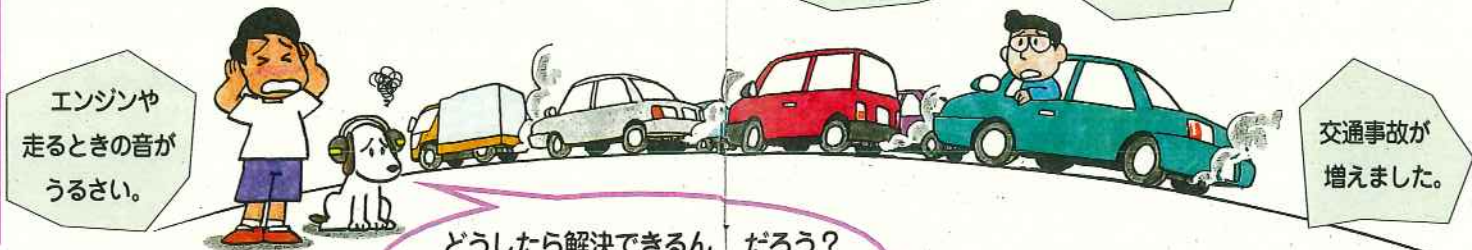


便利な宅配便が登場!

1970年代の半ばまで、トラック輸送を利用していたのは企業がほとんどで、個人の小荷物は近くの郵便局から送りました。しかし郵便局が受け付けてくれる荷物は6kgまで。それよりも重いものは国鉄(今のJR)の駅に持ち込むのが普通でした。荷物を受け取る場合も、到着日ははっきりしないし、家までは届けてくれないので駅に取りに行かなければなりません。そこで、1976年(昭和51年)に登場したのが「宅配便」。米屋やコンビニエンスストアを取次店とし、到着する時間まで指定できる便利さが人気を呼んで、めざましい成長をとげました。



道に車があふれ、 困ったことも起きました。



エンジンや
走るときの音が
うるさい。

はいき
排気ガスで空気
が汚れました。

こうつうじゅうたい
交通渋滞が
増えました。

交通事故が
増えました。

どうしたら解決できるん だろう？
みんなで考えてみよう

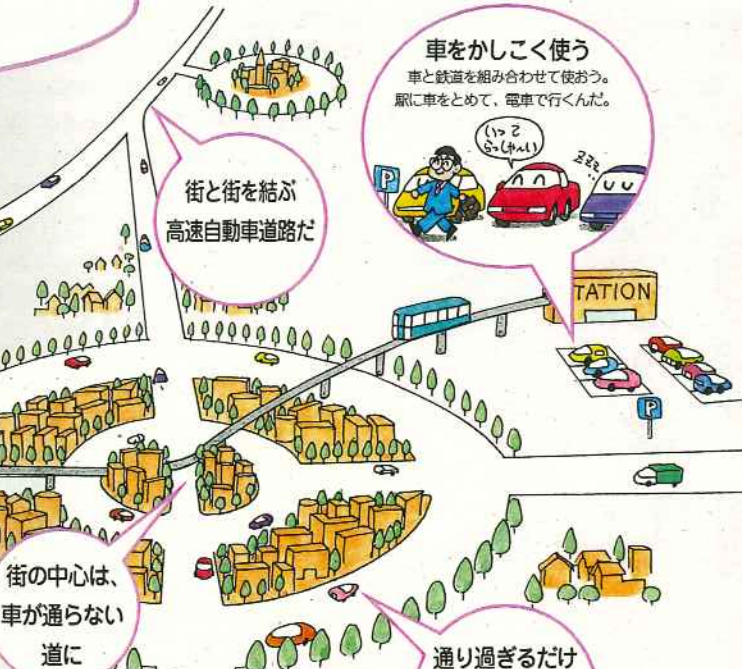
原因は車と道路のアンバランス

かつて街道は、おもに人や馬が通る道でした。それが明治になると馬車や自動車が登場し、さらに戦後にはマイカーやトラックなどが走るようになりました。大量の自動車がせまい道にひしめくようになったのです。交通量が増えたことで、交通渋滞がおこり、住民は騒音や排気ガスなどの交通公害に困るようになりました。人びとの努力でいったんは少なくなった交通事故も、今ではまた増え続けています。

原因のひとつとして、自動車の急激な増加に、道路の整備が追いついていないことがあげられます。

- 交通渋滞のない街にするには？
- 事故の起きない街にするには？
- 車のための道って？
- 人の集う道って？

ふみきりがない
ので渋滞もなし



車をかしこく使う
車と鉄道を組み合わせて使おう。
駅に車をとめて、電車で行くんだ。

街と街を結ぶ
高速自動車道路だ

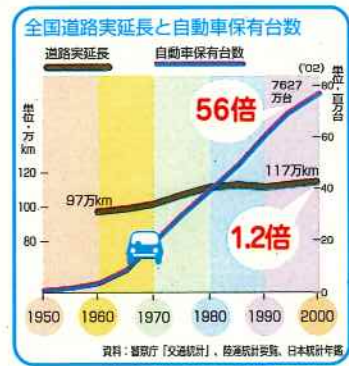
街の中心は、
車が通らない
道に

通り過ぎるだけ
の車は、まわりの
道を通る

車の道と
人の道を分ける
道路に幅の広い歩道をつくったり、
バリアフリー^{*}にして、子どもたちやお年寄り、
車いすの人が安全に移動できるようにしよう。

*バリアフリー
お年寄りや車いすの人などの、動作や心と与える障害をなくすことを意味しています。道づくりでは、幅を広くしたり、段差をなくすなどの工夫をしています。

’60年~’96年の間に日本中の全ての道路を足した長さは1.2倍に、しかし自動車の数はなんと53倍に！

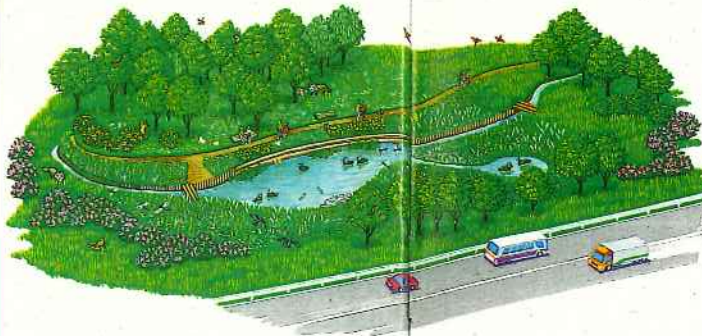


おもしろズームイン
こうぜんじはかせ
光善寺博士の
緑と道の
けんきゅう
研究ファイル



わたくし、「緑と道の博士」の光善寺ですが、最近、道の役割やつくり方が少しずつ変わってきてるのをご存じかしら？今日はわたくしの貴重な研究ファイルから、いくつかお話しをさせていただきますわ。

道と緑のかんけい



緑の道「エコロード」

「エコロード」って知ってる？今、研究中なんだけど、まわりの自然を調査して、そこに棲む動植物を守りながら道路を整備していく方法なの。いろんな生き物とともに暮らせる池や浅瀬なんかもつくるんだけど、これは「ビオトープ」って呼ぶのよ。



国道1号のクスノキの並木
地域の代表的な樹もとりにけいます。

きれいなだけじゃない！並木道の意外な役目

並木道は街をすてきなふんいきにするけど、それだけじゃないわ。植物は有害なガスや二酸化炭素を吸収して空気をきれいにしてくれるの。排気ガスに強い樹なら「カツノキ」や「モチノキ」などね。おまけに車の騒音も、生け垣のように植えた植物

がおさえてくれるのよ。だから道路をつくるときには、初めに植物のことも考えなきゃ。場所に合わせて高い木と低い木を組み合わせたたり、桜や銀杏などの季節を感じる樹を植えることも大切よね。



いろんなものが通る道



**生活を支える
水や電気、ガスの通り道**

道路の地下には、水道や電気、ガスなどの管が通っているの。生活に必要なこれらをライフライン（生命の線）というのよ。地下に空間をつかって、これらの管をまとめて通すしくみを「共同溝」といい、道路をほり起こさなくてもこの中に人が入って工事ができるようになっているの。

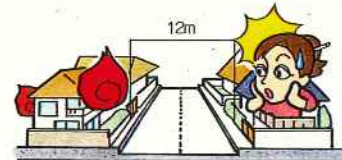
情報の通り道は高速だ！

「光ファイバー」って知ってる？今まで銅線を使って伝えていた情報を、もっと高速に伝えることができるの。インターネットやケーブルテレビなどでは、光ファイバーの使用がしたいに増えてきたのよ。これを国中に

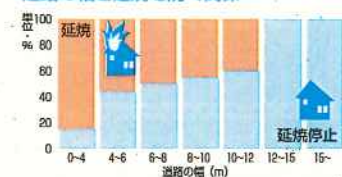


はばひろ道路が火事をストップ！

阪神大震災で分かったことがあるの。それは火事的时候、道の幅が12m以上あると火が燃え移るのをくい止めることができる、ということなの。災害に強いまちをつくるには、道の幅を広くするのも大切なのね。



道路の幅と延焼を防ぐ関係



資料：国土交通省（阪神・淡路大震災での神戸市兵庫区の様子）

未来の道はどんな道？



あら、未来の道のことなら
わたくしにまかせて

道が変わる

ここまでで、古代から現代にかけて道がどのようにつくられ利用されてきたかを見てきました。とくにここ50年の間に自動車が急激に増え、いろいろな問題が起きていることも分かったかしら？そして道には、情報を運ぶなどの新しい役割が加わったことも。そこで、ちょっと想像してみてください。ステキななって思うのはどんな道かしら？例えば、緑いっぱい鳥がさえずり、お散歩ができる道。街と街をむすぶ道がこんなふうなら、森の鳥が緑を伝えて街にやってくるかもしれないわ。実はこんな道づくりはもう始まっているのよ。京都と大阪を結ぶ新しい道「第二京阪道路」。「緑立つ道」って呼ばれてるの。道がもっとステキになる未来って、どんなかしらね。



車も変わる

じゃあ車の方はどうかしら？今、一番期待されているのが、静かで排気ガスが出ない電気自動車。とくに燃料電池を積んだ車は自分で発電するから効率もいいの。「緑立つ道」を電気自動車が走るようになったら、騒音や排気ガスもないし、森林浴もできる緑の公園が続いているような感じかしら？ちょっと行ってみたいわね。

わたしたちが
ずっと仲よくできる
「未来の道」を
考えてみてね。



ピキッ

やわたし
八幡市

- ① **神応寺** (八幡市八幡高坊)
平安時代に開かれた真言宗の寺院 現在は曹洞宗
■交通: 京阪本線八幡市駅下車歩いて7分
 - ② **石清水八幡宮** (八幡市八幡高坊)
平安時代に開かれた神社 本願は男山の山頂にある
■交通: 京阪本線八幡市駅よりケーブルカーで男山山上下車
 - ③ **薬園寺** (八幡市森垣内)
奈良時代に開かれた浄土宗の寺院 当時は薬草を栽培する園地を管理する寺院であったという
■交通: 京阪本線八幡市駅よりバス森下車歩いて5分
 - ④ **松花堂** (八幡市八幡女郎花)
江戸時代初期の文人・松花堂芭蕉が建てた書院や庭園
■交通: 京阪本線八幡市駅よりバス大芝下車
 - ⑤ **円福寺** (八幡市八幡福緑谷)
江戸時代中期に開かれた臨済宗妙心寺末の修行道場
■交通: 京阪本線樟葉駅よりバス吉井下車歩いて15分
 - ⑥ **洞ヶ峠** (八幡市南山)
東高野街道にある山城(京都)と河内国(大阪)の境
■交通: 京阪本線樟葉駅よりバス吉井下車歩いて20分
- きょうたなべし
京田辺市
- ⑦ **月読神社** (京田辺市大住)
九州の大隈半人が7世紀頃に移住 単人舞が伝承される
■交通: JR学研都市線大住駅下車歩いて18分
 - ⑧ **大住車塚古墳** (京田辺市大住)
5世紀前半の前方後円墳 冢石と埴輪が発掘された
■交通: JR学研都市線大住駅下車歩いて25分
 - ⑨ **一休寺酬恩庵** (京田辺市新)
鎌倉時代の臨済宗寺院 一休禪師が後半の生涯を送った
■交通: JR学研都市線京田辺市駅下車歩いて14分
 - ⑩ **山本駅跡** (京田辺市三山木)
山陰道の山本駅 田辺街道との分岐点に位置する
■交通: 近鉄京橿線三山木駅歩いて15分
- ひらかたし
枚方市
- ⑪ **久修院** (枚方市楠葉中之芝)
奈良時代に行基が開いた寺院 全焼後、江戸時代に再興
■交通: 京阪本線楠葉駅下車歩いて10分
 - ⑫ **交野天神社** (枚方市楠葉丘2丁目)
平安時代に桓武天皇が父光仁天皇を祀った神社
■交通: 京阪本線樟葉駅よりバス長沢下車歩いて5分
 - ⑬ **片笠神社** (枚方市牧野阪2丁目)
平安以前から交野の鎮守神として崇拝されている神社
■交通: 京阪本線枚野駅下車歩いて5分
 - ⑭ **枚野車塚古墳** (枚方市小倉東町)
5世紀前半に造られた、2重の濠を備えた大型前方後円墳
■交通: 京阪本線枚方市駅よりバス豊野外大下車歩いて3分

- ⑮ **港の院跡** (枚方市渚元町)
平安時代に推古天皇が造った別荘「港の院」の跡
■交通: 京阪本線御園山駅下車歩いて10分
 - ⑯ **鍵屋・旧枚方宿** (枚方市堤町)
枚方宿の代表的な船宿 地下から船で川にこぎ出せた
■交通: 京阪本線枚方公園駅下車歩いて3分
 - ⑰ **百濟寺跡** (枚方市中宮西之町)
亡命した百濟国王一族が奈良時代中期に建立した寺院
■交通: 京阪交野線宮之阪駅下車歩いて10分
 - ⑱ **禁野車塚古墳** (枚方市宮之阪5丁目)
4世紀末から5世紀初頭と推定される大型の前方後円墳
■交通: 京阪交野線宮之阪駅下車歩いて10分
 - ⑲ **光善寺** (枚方市出口2丁目)
室町時代に蓮如上人が草創に創建されたといわれる寺院
■交通: 京阪本線光善寺駅下車歩いて15分
 - ⑳ **円通寺** (枚方市出屋敷元町1丁目)
津田の南東円通谷にあった寺院 江戸時代から現在地
■交通: 京阪本線枚方市駅からバス出屋敷下車歩いて5分
 - ㉑ **松王仁墓** (枚方市藤阪東町2丁目)
4世紀末に百濟から論語などをもたらした王仁博士の墓
■交通: JR学研都市線長尾駅下車歩いて15分
- きょうたなべし
旧田中家鋳物民俗資料館
(枚方市藤阪天神町5)
河内惣官鋳物師だった田中家の鋳物工場を移築復元
■交通: JR藤阪駅下車歩いて約5分
- かたし
交野市
- ㉒ **北田家住宅** (交野市私部1丁目)
今も残る北田家の代官屋敷 敷地は約1200坪もある
■交通: 京阪交野線交野市駅下車歩いて10分
 - ㉓ **機物神社** (交野市倉治1丁目)
機織の技術を伝えた漢人匠員を祭神とする神社
■交通: JR学研都市線津田駅下車歩いて10分
 - ㉔ **源氏の瀧** (交野市東倉治2丁目)
高さ18mの瀧 古くから修験者がこの瀧で身を清めた
■交通: JR学研都市線津田駅下車歩いて25分
 - ㉕ **かいはげの道・蓮華寺** (交野市寺へ傍)
飛騨語での人や大和へ向かう人がかつて通った道
■交通: JR学研都市線河内船場駅下車歩いて40分または京阪交野線河内森駅下車歩いて40分
 - ㉖ **獅子窟寺** (交野市私市)
後小角が開いたといわれる寺 空海もこの山で修行した
■交通: JR学研都市線河内船場駅下車歩いて40分または京阪交野線河内森駅下車歩いて40分
 - ㉗ **磐船神社** (交野市私市9丁目)
天照皇大神が天の磐船により降臨したといわれる神社
■交通: 京阪交野線私市駅よりバス磐船神社前下車

おやがわし
寝屋川市

- ㉘ **春日神社のしいの社叢** (寝屋川市国公町)
境内には、樹齢数百年のシイの大樹が野生している
■交通: 京阪本線寝屋川市駅よりバス国公口下車歩いて3分
 - ㉙ **秦河勝の墓** (寝屋川市川勝町)
優れた技術を持った渡来人・秦氏の首長、秦河勝の墓
■交通: 京阪本線寝屋川市駅よりバス観音橋下車歩いて5分
 - ㉚ **神田のくすの木** (寝屋川市上神田2丁目)
高さ約20m、周囲約10m、樹齢は一千年前後と推定される
■交通: 京阪本線島原駅よりバス上神田下車歩いて3分
 - ㉛ **高宮廃寺跡** (寝屋川市高宮)
境内に、白鳳時代に創建された古代寺院の跡がある
■交通: 京阪本線寝屋川市駅よりバス高宮口歩いて10分
 - ㉜ **弘法の井戸** (寝屋川市打上)
東高野街道にあり、行き交う人々の海をいやした井戸
■交通: JR学研都市線東寝屋川駅下車歩いて7分
 - ㉝ **石の宝殿古墳** (寝屋川市打上)
横口式石階を持つ、7世紀代に造られた墳墓
■交通: JR学研都市線東寝屋川駅下車歩いて7分
- しじょうわてし
四條畷市
- ㉞ **忍ヶ丘古墳** (四條畷市岡山)
境内に古墳時代前期の前方後円墳の石積石室が現存する
■交通: JR学研都市線忍ヶ丘駅下車歩いて5分
 - ㉟ **小幡公の墓所** (四條畷市雁谷南町)
楠木正成の長子正行公が足利尊氏の郎將と戦い葬られた所
■交通: JR学研都市線四條畷駅下車歩いて5分
 - ㊱ **和田賢秀の墓** (四條畷市南野4丁目)
楠木正行公が討死にした時、共に戦った和田賢秀の墓
■交通: JR学研都市線四條畷駅下車歩いて10分
 - ㊲ **四條畷神社** (四條畷市南野2丁目)
楠木正行公を主祭神として楠木一族の海士24人を祀る神社
■交通: JR学研都市線四條畷駅下車歩いて10分
 - ㊳ **石造五輪塔** (四條畷市逢坂)
鎌倉時代の様式を表した、密教思想を伝える五輪の塔
■交通: JR学研都市線四條畷駅よりバス逢坂下車歩いて5分

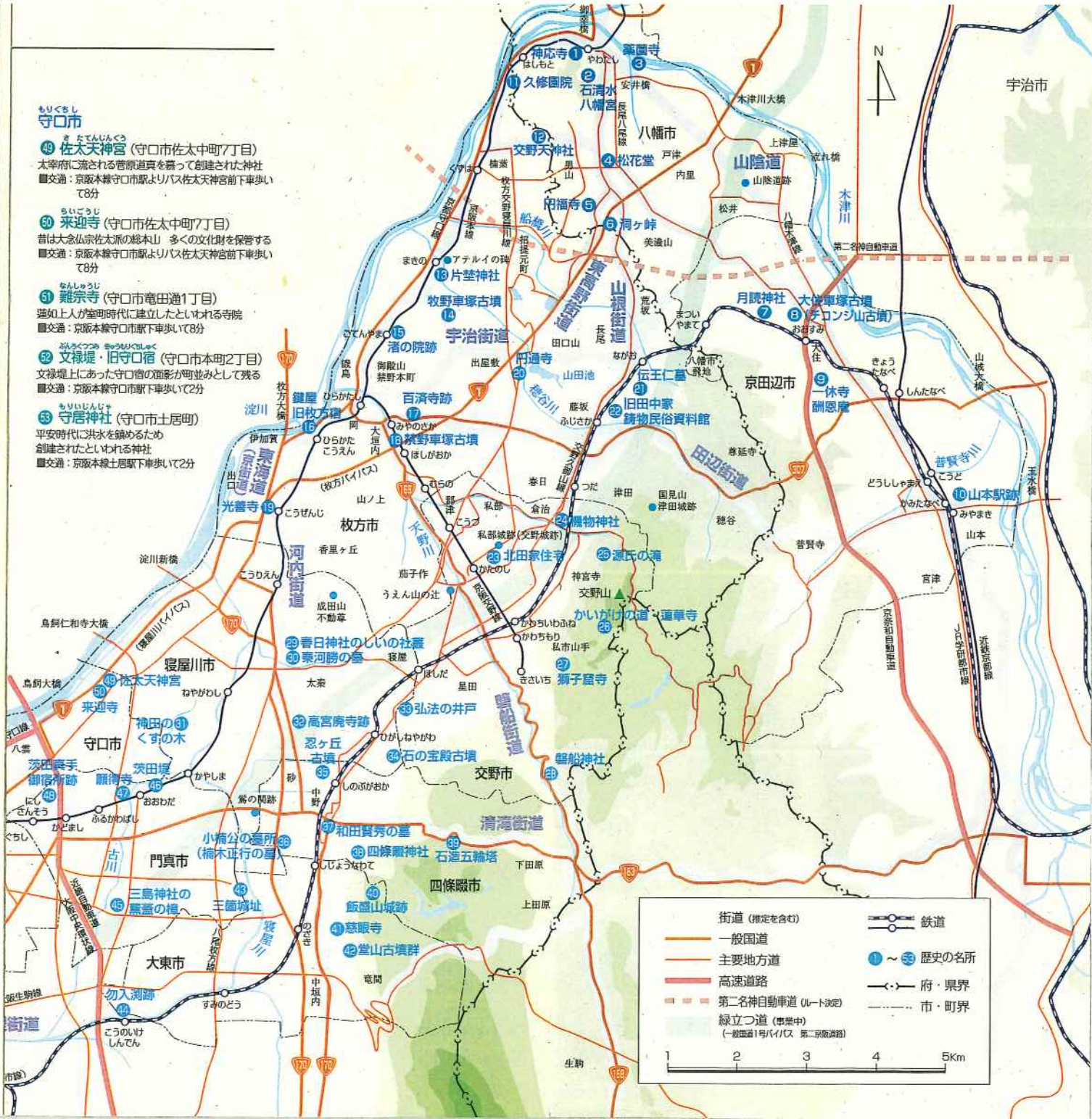
だいとうし
大東市

- ㊴ **磐盛山城跡** (大東市北条)
古代から、戦略的位置のため武將が覇権を争った山城
■交通: JR学研都市線四條畷駅下車歩いて60分
 - ㊵ **慈眼寺(聖阿彌陀尊)** (大東市野崎2丁目)
野崎まいりでもにぎわう曹洞宗の寺
■交通: JR学研都市線野崎駅下車歩いて10分
 - ㊶ **堂山古墳群** (大東市寺川4丁目)
5世紀から7世紀にかけて、総数7基の古墳群が広がる
■交通: JR学研都市線野崎駅下車歩いて15分
 - ㊷ **三箇城址** (大東市三箇5丁目)
深野池の島に築かれた三箇城 城主はキリシタンだった
■交通: 京阪本線島原駅よりバス江ノ口下車歩いて5分
 - ㊸ **勿入湖跡** (大東市諸福6丁目)
松平子にも記された「勿入の湖」と呼ばれる湖の跡
■交通: JR学研都市線海部新田駅下車歩いて7分
- かどまし
門真市
- ㊹ **三島神社の薫蓋の樟** (門真市三ツ島)
幹周り1.4m、高さ30mを超える樹齢千年以上と言われる樟木
■交通: 京阪本線古川橋駅よりバス三ツ島下車歩いて3分
 - ㊺ **灰田堤** (門真市宮野町)
古墳時代中期に築かれた日本最古の堤の跡が残っている
■交通: 京阪本線大和田駅下車歩いて8分
 - ㊻ **願得寺** (門真市御堂町)
中世門真の代表的彫刻、本尊阿彌陀像が安置されている
■交通: 京阪本線大和田駅よりバス願得寺前下車歩いて5分
 - ㊼ **灰田真手御宿所跡** (門真市堂山町)
伊勢の斎王が任務を終えて都へ帰る途中宿泊した場所
■交通: 京阪本線門真市駅下車歩いて15分



守口市

- ④ 佐太天神宮** (守口市佐太中町7丁目)
 太宰府に流される菅原道真を慕って創建された神社
 ■交通：京阪本線守口市駅よりバス佐太天神宮前下車歩いて8分
- ⑤ 来迎寺** (守口市佐太中町7丁目)
 昔は大念仏宗佐太派の総本山 多くの文化財を保管する
 ■交通：京阪本線守口市駅よりバス佐太天神宮前下車歩いて8分
- ⑥ 難宗寺** (守口市竜田通1丁目)
 蓮如上人が室町時代に建立したといわれる寺院
 ■交通：京阪本線守口市駅下車歩いて8分
- ⑦ 文祿堤・旧守口宿** (守口市本町2丁目)
 文祿堤上にあった守口宿の面影が町並みとして残る
 ■交通：京阪本線守口市駅下車歩いて2分
- ⑧ 守居神社** (守口市土居町)
 平安時代に洪水を鎮めるため創建されたといわれる神社
 ■交通：京阪本線土居駅下車歩いて2分



街道 (指定を含む)	鉄道
一般国道	① ~ ③ 歴史の名所
主要地方道	府・県界
高速道路	市・町界
第二名神自動車道 (ルート決定)	
緑立つ道 (事業中) (一般国道1号バイパス 第二京阪道路)	

1 2 3 4 5Km

見どころアルバム

4 松花堂



31 神田のくすの木



9 一休寺跡庵



38 四條驛神社



12 交野天神社



41 慈眼寺(野崎観音)



27 獅子庵寺



42 堂山古墳群



28 磐船神社



43 三島神社の薬籠の櫓



29 春日神社



49 佐太天神宮



かいとう 街道いちらん

●山陰・山陽道

この道が初めて開かれたのは、紀元前といわれています。奈良時代からは、朝廷のさまざまな物を運ぶ官道として栄えました。

【ルート】山陰道：平城京から因幡(鳥取県)

や出雲(島根県)へ

山陽道：平城京から備前(岡山県)や安芸(広島県)などを通して太宰府へ

●東高野街道

この道のもと、縄文時代からあった古い道で、奈良時代からは南海道といわれ、平安時代には信仰の道として栄えました。現在でも枚方市の出屋敷や八幡市の洞ヶ峠付近で、昔のおもかげが残っています。

【ルート】京都(東寺)…八幡→出屋敷→郡津→打上…高野山

●山根街道

八幡で東高野街道と分かれて南に下る道で、交野市の私部を通り、ふたたび東高野街道と合流します。この道は地元の人々の生活の道で、石清水八幡宮と野崎観音につながる信仰の道でもありました。

【ルート】八幡→長尾→藤阪→津田→私部→逢合橋

●田辺街道

枚方市と京田辺市を結ぶ道で、戦国時代、本能寺で信長が殺されたとき、徳川家康が急いで自分の領地に帰るときに通った道といわれています。現在では国道307号が通っています。

【ルート】枚方→津田→尊延寺→田辺

●宇治街道

たいへん古い道なので、道の始まりと終点ははっきりしません。この地域では枚方市から荒坂峠を通る道をいいます。かつては宇治の県(あがた)祭りにお参りに行く人や、茶つみに働きにいく人々が利用しました。

【ルート】枚方→甲斐田→長尾→荒坂峠→宇治

●磐船街道

現在の枚方市「ビオルネ」から四條驛市の田原にぬける道で、1日で歩けるみじかい街道です。天野川沿いに続くこの街道では、交野市の私部に昔のおもかげが残っています。

【ルート】枚方→秘津→私市→田原

●河内街道(枚方街道)

この道が街道と呼ばれるようになったのは明治になってからのことですが、道そのものは古くからありました。室町時代の終わりごろ(戦国時代)には、キリスト教の布教のために宣教師たちがこの道を通りました。

【ルート】枚方→高宮→厩屋→住道…八尾

●京街道(東海道)

秀吉がつくった文禄堤のていぼうの上を、家康が整備して、この道をつくりました。江戸時代には大名行列も通り、明治になると国道2号となり大阪と京都を結ぶ道路として活やく。現在は一部が府道・京都守口線になっています。

【ルート】大阪…守口→枚方→八幡…大津

●清滝街道

奈良時代に行基がつくった道といわれ、河内から伊勢へのお参りの道として、またたくさんのお参りを送る道として使われました。現在は国道163号となっていますが、清滝街道のよび名も残っています。

【ルート】四條驛→逢阪→清滝峠→田原…奈良

●古堤街道

大阪から奈良の北部を結ぶ近道で、古堤街道とよばれるようになったのは明治のころからです。昔のおもかげが、大東市の諸福や住道付近に残っています。

【ルート】大阪…諸福→住道→中垣内…生駒

さくいん

あ	性善親王 こたかしのう……10	瀧の院 なぎさのいん……10
在野楽平 おののり05……10	金剛祥寺 こんごうぶじ……8	浪花講 なにわこう……23
阪道山脈 いたみ山脈……13,43	近藤勇 こんどういさみ……24	浪速鉄道 なにわつどう……26
石の生駒古墳 しのなまこみこみ……3	さ	難波津 なにわつ……3
伊勢皇大神宮 いせのみじんぐう……22	西海道 さいがいどう……4	南海道 なんかいどう……4
市 いち……12	坂本龍馬 さかもとりょうま……25	難宗寺 なんしゅうじ……14
石清水八幡宮 いしのみやまひんぐう……12,13	佐天神宮 さたてんじんぐう……14,44	難陀堂 なんだどう……25
熊の鷹 うくいのたけ……7	山陰道 さんいんどう……4	二上山 にじょうざん(のみたまがね)……3
宇治街道 うじがしどう……12	山陰道跡 さんいんどうあと……5	日本万国博覧会 にっぽんこくはくらんかい……30
割川伝説 うたがわのろしげ……20	三箇城 さんかじょう……13,43	仁徳天皇 にんとくてんのう……3
午市・子市 うまいち・ねいち……12	参勤交代 さんきんこうたい……16	燃料電池 ねんりょうでんち……41
尿 えき……5	山陽道 さんやうどう……4	は
尿制 えきせい……5	シーボルト……18	旅館屋 はたごや……18
駅通司 えきていし……34	七道 しちどう……4	桑氏 はたし……3
エコロード……38	忍ヶ丘古墳 しのがけかみこみ……3	茶河路の巻 はたのかわみき……3
四蓮寺 えんつうじ……9,42	十返舎一九 じゅうばんしゃいっく……22	櫻物神社 はたものしんじや……9,42
円福寺 えんぷくじ……9	小幡公の墓所 せいはらこうのみ……13,43	情報ハイウェイ情報……37
大阪 おおさか……14	じょうほうハイウェイ……39	ピオトープ……38
大阪街道 おおさかがしどう……16	神宮寺遺跡 じんぐうじしせき……3	東高野街道 とうこうやがしどう……8
大阪城 おおさかじょう……15	新藤網 しんせんくみ……24	飛脚 ひきゃく……20
大塚平八郎 おおつかへいはちろう……24	神石寺 じんごくじ……9,42	飛脚呼 ひみこ……5
大住車塚古墳 おおすまくるまづかみこみ……3	洗心洞跡 せんしんどうじしやく……24	枚方大橋 ひらかたおおはし……28
綱田信長 ながらのぶなが……14	た	枚方宿 ひらかたじしやく……16,18
か	大化改新 たいかのかいしん……4	深尾才次郎 ふかおさいじろう……24
カイゾカイブキ……39	第二京阪道路 だいにけいけんどうろ……10	伏見城 ふしみじょう……15
鏡屋 かぎや……18	大各行列 たいかくぎょうれつ……16	伏見宿 ふしみじしやく……16
片宿 かつしゆく……17	大各飛脚 たいかくひきゃく……20	布施屋 ふせや……6
交野ヶ原 かつのがはら……10	多賀大社 たがたいしゃ……23	文操堤 ぶんそうづつみ……14
片笠神社 かつかさのしんじや……5,42	高宮園寺跡 たかみやのしんじや……5,43	平城京 へいじょうきょう……4
交野天神社 かつのてんじんじや……5,42	大宰府 たいさいふ……4	北陸道 ほくりくどう……4
河内湖 かわちこ……2	聖穴式住居 たてあしきじゅうきょ……2	羽ヶ峠 ほらがとげ……12
紀伊御山家 きいのおみやま……16	田辺街道 たなべがしどう……12	本陣 ほんじん……18
紀伊熊野 きのうま……16	細路御 つぎひきゃく……20	ま
越内 きない……4	筒井順慶 つづみじゆんけい……13	牧野車塚古墳 せきのくるまづかみこみ……3,42
旧田中家蔵書物史料館 せうたなかのくわいぶくしりょうかん……2	寺田屋 てらだや……25	明飛脚 ちるひきゃく……20
京街道 きょうがしどう……16	問屋場 といやば……18	松屋甚四郎 まつやしんしろう……23
行基 きょうき……6	東海通 とうかいどう……4,12	茨田理 まんぢのつづみ……3
共同溝 きょうどうこう……38	東海道7次 とうかいどうしちゅうななつぎ……20	道の駅 みちのえき……5
高海街道 かつたかがしどう……6	東海道新幹線 とうかいどうしんかんせん……30	緑立つ道 みどりたつみち……40
禁野 きんや……10	とうかいどうしんかんせん……30	明屋上人 みやうしんじん……12
禁野車塚古墳 きんやのくるまづかみこみ……3	東海道中継駅 とうかいどうちゅうけいぎ……22	名神高速道路 なるしんこうすくどう……30
空海 くうがい……8	東京オリンピック とうきょうオリンピック……30	モチノキ……39
久修園院 くすおんいん……5,42	とうきょうオリンピック……30	守口宿 もりぐちしゆく……16
榎原宮 くすはのみや……3	東山道 とうざんどう……4	文氣天皇 もんとくてんのう……10
百濟寺跡 くだらじあつ……5	京寺 とうじ……8	や
百濟王氏 くだらのこにきし……5	堂山古墳群 どうやまこみんぐん……3	薬師寺 やくおんじ……5,42
京阪電気鉄道 けいはんでんきてつどう……26	徳川家康 とくがわいえやす……16	大和郡屋 やまとちやうてい……3
光善寺 こうぜんじ……13,42	豊臣秀吉 とよとみひでよし……15	山根街道 やまねがしどう……8
弘法大師 こうぼうだいし……8	内閣府 ないかくふ……34	山本駅 やまもとえき……5
高野山 こうやさん……8	ないかくふうんがししや……34	淀川 よどがわ……17
香泉園地 こうせんえんち……32	勿入洞跡 ぶいりそのほらちあと……3	淀宿 よどしゆく……16
御願山 ごてんやま……11		淀津 よどつ……12

地域の明日をつくるみなさんへ

国土交通省では、みなさんの地域の道を長い間つくり続けてきました。みなさんが学校や病院に行く時に安心して通行できる道をつくったり、でこぼこやびびわれができた道をきれいに直したりしてきました。そして今では、21世紀の夢がいっぱいの道もつくり始めています。

みなさんの地域では、気持ちの良い移動や楽しい散歩ができるような、緑あふれる新しい道—京都と大阪を結ぶ「第二京阪道路」—をがんばってつくっているところです。

道づくりのしごとをしていると、あまり知られていなかった道の歴史やものごたりの見つけることがあります。そしてそのうち、そうしたおもしろいお話を、地域のみなさんにもお伝えしたくなりました。こうしたお話を集めたのが、この「道をたねて二千年」という冊子です。

これをきっかけにして、みなさんがもっと道となかよしになって、道の働きにきょうみをもってもらえるようになれば、たいへんうれしいと思います。

最後に、この冊子づくりにご尽力いただきました関係者のみなさま、またお忙しいところをご協力いただきましたみなさまに、心よりお礼申し上げます。

国土交通省近畿地方整備局
浪速国道事務所長

監修	児玉幸多 学習院大学名誉教授
編集・資料協力	中島三佳 郷土史家(近世交通史)
資料提供	大阪府教育委員会
	八幡市 京田辺市 枚方市
	交野市 寝屋川市 四條畷市
	大東市 門真市 守口市
	(財)枚方市文化財研究調査会 古文物学研究会
	京阪電気鉄道株式会社 JH日本道路公団
	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
	堺市博物館 淀川資料館
	(株)郷土出版社 (株)大明堂出版 (株)山川出版社
	(株)柳原書店 (株)臨川書店 毎日新聞社